

29. 動詞の3基本形 (2)

分離動詞や非分離動詞のように接頭語を持った動詞のことを複合動詞といいます、その3基本形は次のようになります。

1. 分離動詞の場合

過去分詞を示す *ge-* は、分離動詞の接頭語と動詞本体のあいだに挿入して一語で書き、アクセントはかならず分離動詞の接頭語において発音します。

意味	不定詞	過去基本形	過去分詞
「旅行する」	reisen	reiste	gereist
「旅立つ」	abreisen	reiste...ab	abgereist
「来る」	kommen	kam	gekommen
「到着する」	ankommen	kam...an	angekommen

不定詞と過去分詞のかたちを書く場合は接頭語は動詞本体にくっつけておきますが、現在と過去の人称変化や基本形を書くときは分離動詞であることを示すために常に接頭語を離しておきます。

2. 非分離動詞の場合

アクセントをもたない接頭語 (*be-*, *emp-*, *ent-*, *er-*, *ge-*, *ver-*, *zer-*) をつけている非分離動詞にさらに過去分詞を示す *ge-* をつけると、アクセントがない接頭語が2つも連続することになってくどく感じられるために過去分詞の *ge-* はつけません。したがってアクセントはかならず動詞本体において発音します。

意味	不定詞	過去基本形	過去分詞
「学ぶ」	lernen	lernte	gelernt
「習得する」	erlernen	erlernte	erlernt
「立つ」	stehen	stand	gestanden
「理解する」	verstehen	verstand	verstanden

こうして過去分詞に *ge-* をつけない場合にはたまたま不定詞と過去分詞がまったく同じかたちになってしまう非分離動詞もあります。

意味	不定詞	過去基本形	過去分詞
「得る」	<u>bekommen</u>	bekam	<u>bekommen</u>
「忘れる」	<u>vergessen</u>	vergaß	<u>vergessen</u>

この *bekommen* などの例は英語の *become* など原形と過去分詞が同じかたちになるのと同様です。

しかし注意しなければならないのは *ge-* という接頭語は過去分詞以外にも用いられていることです。たとえば、次のような例です。

意味	不定詞	過去基本形	過去分詞
「落ちる」	fallen	fiel	<u>gefallen</u>
「...に気に入る」	gefallen	gefiel	<u>gefallen</u>

fallen に非分離動詞の接頭語である *ge-* をつけて全く別の意味をもつ *gefallen* という非分離動詞がありますが、この過去分詞の *ge-* はもともとついていた非分離動詞の接頭語ですから、過去分

詞をしめす接頭語の ge- とは意味や性質が違うものなのです。ところが過去分詞は両者とも同じかたちになってしまいますから用いられている文脈で判断するしか区別できません。

こうした紛らわしい動詞はそのほかにもいくつかあります。

意味	不定詞	過去基本形	過去分詞
「必要とする」	brauchen	brauchte	<u>gebraucht</u>
「利用する」	gebrauchen	gebrauchte	<u>gebraucht</u>

その他 hören「聞く」と gehören「属する」、raten「忠告する」と geraten「陥る」などがありますが、gelingen「成功する」 genesen「回復する」 genießen「楽しむ」 geschehen「起こる」 gewinnen「得る」など ge- のついていないもとの動詞のかたちが現在では使われなくなったものもあります。このようなもとのかたちが消滅した動詞は辞書の巻末の「不規則動詞変化表」などには接頭語がついたかたちで掲載されています。

しかしそのほかの分離動詞や非分離動詞はそれぞれの接頭語を取ったかたちで調べ、必要なら過去分詞の ge- を取ったり、あるいは逆に加えたりしなくてはなりません。

意味	不定詞	過去基本形	過去分詞
「訪問する」	besuchen	besuchte	besucht
「捜す」	suchen	suchte	gesucht
「起きあがる」	aufstehen	stand...auf	aufgestanden
「立つ」	stehen	stand	gestanden

さらに、過去分詞に ge- をつけない場合として外来語系の動詞があります。ドイツ語は外来語にしばしば -ieren という語尾をつけて動詞を作りますが、外来語はあまりかたちを変えるとわかりにくくなりますからやはり過去分詞に ge- をつけず、アクセントは動詞の最後の ie におきます。

意味	不定詞	過去基本形	過去分詞
「大学で学ぶ」	studieren	studierte	<u>studiert</u>
「予約する」	reservieren	reservierte	<u>reserviert</u>
「修理する」	reparieren	reparierte	<u>repariert</u>

最近では英語などの動詞をそのまま取り入れている例も多くなっています。

「リサイクルする」	recyceln	recyclte	<u>recycelt</u>
「Eメールする」	e-mailen	e-mailte	<u>geemilt</u>

こうした外来語系の動詞はすべて弱変化動詞ですが、やはり現在単数3人称と過去分詞が同じかたちになるため、用いられている文脈で判断して区別することが必要です。

以上を整理してみると、過去分詞に ge- をつけるかどうか、アクセントはどこにおいて発音するかには次のようなきまりがあります。

- 分離動詞には接頭語と動詞本体のあいだにかならず ge- を挿入して接頭語にアクセントをおいて発音する。
- 非分離動詞は ge- をつけず、接頭語にもアクセントをおかないで発音する。
- ieren で終わる外来語系動詞も ge- をつけず、アクセントは末尾の ie において発音する。